

平成 28 年度 事務事業評価シート 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
一般	02	01	17	124650	国内友好都市交流推進事業	
総合計画	分野	人づくり				
	政策	3-3	生涯学習の推進			
	施策	3	国際都市の推進			
目的	友好都市（神奈川県平塚市・青森県十和田市）との都市交流を推進する。					
対象	花巻市民・友好都市市民					
意図	友好都市間の交流を促進する。					
事業概要 …上記目的を実現するための事業手法を記載すること						
○友好都市との交流 花巻市友好都市交流委員会補助 少年少女交流キャンプ、市民ツアー、神輿団体との交流などを実施						
市民参画の有無 []						
市民協働の形態		○ 共催		実行委員会・協議会		
		後援・協賛		○ 補助・助成		
				事業協力・協定		
				委託		
活動指標（上記「事業概要」に対応）		単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
①	友好都市交流事業実施回数	回	計画	20	20	
			実績	29	27	
②			計画			
			実績			
③			計画			
			実績			
成果指標（上記「意図」に対応）		単位	区分	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(計画)
①	友好都市交流事業参加人数	人	目標	450	500	
			実績	430	419	
②			目標			
			実績			
③			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり	○ 目標値より低い		

成果指標の達成度の要因分析 (新規事業及び成果指標を変更した場合は、その成果指標を設定した考え方、目標値の根拠を記載)		
・平成28年度においても引き続き平塚市、十和田市との交流事業が活発に行われており、今後も様々な団体に友好都市との交流を呼びかけていく。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	・市が取り交わした友好都市提携盟約書に基づいて進めている事業であり、公共関与は妥当である。
	<input type="radio"/> 妥当である	
	見直し余地がある <input type="radio"/> 妥当でない	
有効性	成果の向上余地	・事業の内容の見直しや、交流を呼びかける周知方法を充実させるなどの余地がある。
	<input type="radio"/> 向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	・友好都市との交流を広げるための事業費としてこれ以上の削減は、事業の縮小につながるため削減の余地はない。 ・職員は、企画と実施を行っており外部に委託することのできないため削減の余地はない。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある <input type="radio"/> どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	・交流事業の参加者は、小学生・市民とも市内全域から募集しており、受益機会は均等である。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある <input type="radio"/> 適正である	
総合評価 …上記評価結果の総括		
・平成28年度は、平塚市と十和田市との様々な交流が各団体において活発に行われた。今後も、市民の各層、様々な団体に働き掛けて交流を推進していくことが必要である。		

平成 28 年度 事業説明資料 【 事後評価 】

※色付きのセルのみ入力してください。また、行・列の挿入や削除は絶対に行わないでください。

会計	款	項	目	事業J-ト	事業名
一般	02	01	17	124650	国内友好都市交流推進事業

単位：千円

		27年度 決算額(A)	28年度 決算額(B)	29年度 現計予算額	決算額前年比 (B-A)
事業費		1,287	1,583	1,702	296
財源内訳	国・県				
	地方債				
	その他				
	一般財源	1,287	1,583	1,702	296

事業期間	○	単年度繰返	期間限定	[平成 年度 ~ 平成 年度]
------	---	-------	------	-----------------

部重点施策における目標

生涯学習の推進に努めます。

事業開始の背景・経緯

平塚市とは、「平塚休養の郷」の縮結を経て、昭和59年に友好都市提携を結んだ。
十和田市とは、新渡戸稲造氏の先祖が花巻から十和田へと移り住み灌漑事業を成功させたことによる縁で平成元年に友好都市提携を結んだ。

事業概要

○友好都市との交流

花巻市友好都市交流委員会補助

少年少女交流キャンプ、市民ツアー、神輿団体との交流などを実施

事業を展開する上での課題、留意事項 / 意見・要望等

・友好都市の平塚市・十和田市の両市とも、当市と同様の組織によって友好都市交流事業が行われている。
当市市民が主体となって、それぞれの市と交流事業を進めていくことが望ましい姿と考える。

担当部署 部名 生涯学習部 課名 生涯学習交流課 担当 牛崎 充人 内線 407

(単位：千円)

《事業手法の詳細》…概略図による事業手法の詳細と事業費の内訳を記載すること。
【適宜、セルは結合して構わないが、結合した1つのセル内は1文章程度にとどめること。】



○ 花巻市友好都市交流委員会が実施する事業への補助 1,522千円

- (1) 交流活動の促進 (芸術・文化、スポーツ、祭り、イベント、観光・物産)
- (2) 少年少女交流事業の実施
 - ① 友好都市少年少女マリン交流への参加
 - ② 少年少女交流キャンプの実施
- (3) 友好都市の紹介・情報提供事業の実施
- (4) 市民ツアーの実施 (平塚市、十和田市へ)

○ 友好都市少年少女マリン交流にかかる随員職員旅費 42千円

平塚市が、3つの姉妹都市との間で隔年で開催している小学生を対象とした平塚市ならではの海を活動場所とした交流事業。夏休みを利用して、平塚市と平塚市の姉妹都市併せて4つの市の児童が平塚市に集い、平塚市が用意したプログラムにより交流活動を行った。

○ 友好都市からの来客にかかるお土産 (報償費) 19千円

平塚市・十和田市へのお土産 @380円×50人=19千円